



2019年5月15日

各 位

会 社 名 株式会社プロスペクト
 代表者名 代表取締役社長 田端 正人
 (コード番号 3528 東証2部)
 問合せ先 総 務 部 長 竹谷 治郎
 (TEL 03-3470-8411)

2019年3月期の通期業績と前期の通期業績との差異に関するお知らせ

2019年3月期の通期業績(以下、当期業績)と、2018年3月期の通期業績(以下、前期業績)との差異について、下記の通りお知らせいたします。なお、当社は2019年3月期の業績予想を開示していないため、前期業績との差異の説明を行うものであります。

記

1. 当期業績と前期業績との差異

(1) 2019年3月期通期連結業績と前期連結業績との差異

	売 上 高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前期連結業績(A)	百万円 11,688	百万円 △1,543	百万円 △1,098	百万円 1,483	円 銭 4円46銭
当期連結業績(B)	4,937	△8,041	△8,167	△9,833	△22円18銭
増減額(B-A)	△6,751	△6,497	△7,069	△11,317	—
増減率(%)	△57.8	—	—	—	—

(2) 2019年3月期通期個別業績と前期個別業績との差異

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期個別業績(A)	百万円 5,103	百万円 △1,123	百万円 △299	百万円 △335	円 銭 △1円01銭
当期個別業績(B)	3,985	△751	△1,522	△8,190	△18円47銭
増減額(B-A)	△1,118	371	△1,222	△7,854	—
増減率(%)	△21.9	—	—	—	—

2. 差異の理由

連結業績としましては、当期においてはアセットマネジメント事業セグメントに属する子会社が保有する有価証券の時価総額下落に伴う評価損を売上高に計上したこと等により、前期に比べ売上高が減少いたしました。その結果、前期を上回る営業損失を計上することになり、また、一部の海外プロジェクトへの投資回収に係る貸倒引当金の計上等により経常損益についても前期を上回る損失を計上しております。さらに、子会社が保有する当社発行の新株予約権の評価額下落による自己新株予約権評価損や、アセットマネジメント事業の収益性の低下による当該事業に係る固定資産の減損損失を特別損失に計上したこと等により、親会社株主に帰属する当期純損益は大幅な損失となりました。

個別業績としましては、販管費に計上する海外プロジェクトや再生可能エネルギー事業に係る専門家のアドバイザーフィー等は減少したものの、一部の海外プロジェクトに係る貸倒引当金の計上や、子会社の純資産の減少に伴う関係会社株式評価損の計上、また当社が所有する土地等の有形固定資産の減損損失の計上等により、経常損益及び当期純損益が前期を上回る損失となりました。

以 上